

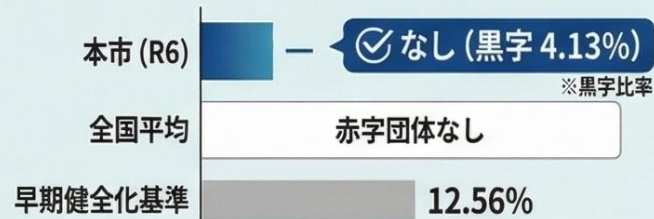
令和6年度 健全化判断比率から見る本市の財政状況：借金返済負担の現状と課題

実質赤字比率と連結実質赤字比率は「なし（黒字）」で早期健全化基準を大きくクリアしています。

一方で、実質公債費比率と将来負担比率は全国平均(市区町村平均)を大きく上回り、市債償還の負担が全国的に見て重い現状を示しています。

赤字の状況（実質赤字比率・連結実質赤字比率）

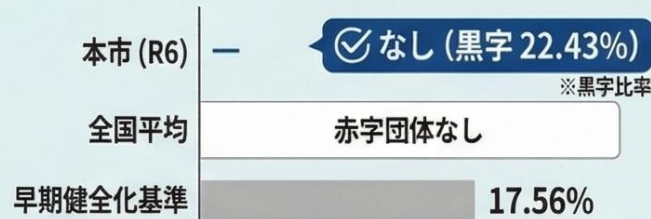
実質赤字比率



実質赤字・連結実質赤字ともに「なし（黒字）」

一般会計および全会計を通じた収支は黒字であり、実質赤字比率は4.13%（黒字比率）となっています。

連結実質赤字比率



早期健全化基準を大きくクリア

連結実質赤字比率の基準17.56%に対し、本市は赤字そのものが発生していません。

財政健全化の指標比較（本市 vs 全国平均 vs 基準値）

指標名	本市の数値(R6)	全国平均	早期健全化基準
実質赤字比率	—(黒字4.13%)	赤字団体なし	12.56%
連結実質赤字比率	—(黒字22.43%)	赤字団体なし	17.56%
実質公債費比率	8.2%	5.6%	25.0%
将来負担比率	104.1%	6.3%	350.0%

単年度の借金返済の負担(実質公債費比率)

実質公債費比率:8.2%(全国平均5.6%)

実質公債費比率と将来負担比率のいずれも全国平均を上回っており、市債の償還の負担が大きい現状を示しています。

実質公債費比率



前年度の8.7%からは0.5ポイント減少したものの、全国平均の5.6%を大きく上回っています。

今後の借金返済等の負担(将来負担比率)

将来負担比率:104.1%(全国平均6.3%)



全国平均(6.3%)との差が非常に大きく、将来世代が負担すべき負債の割合が高いことが顕著に現れています。

今後の展望と課題

●依然として重い「市債償還」の負担

早期健全化基準内ではあるものの、全国平均からは、大きく上回っていることに留意する必要があります。

●事業の選択と集中による持続可能な財政運営

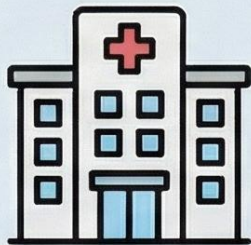
限られた財源を効果的に予算配分し、持続可能な財政運営に努める必要があります。

令和6年度 公営企業会計における資金不足比率の算定結果

全会計において資金不足なし（－％）

病院・水道・下水道の全3会計において資金不足額が生じていないため、算定値は発生していません。

経営健全化基準（法定基準）：20.0%



病院事業会計

－％

資金不足額なし



水道事業会計

－％

資金不足額なし



下水道事業会計

－％

資金不足額なし

全ての企業会計で法定基準をクリアしています。

会計別の剰余比率詳細（令和6年度末時点）

病院事業会計：2.73%

病院事業は剰余を維持するも注視が必要な水準

2.73%

R5 6.63%

水道事業会計：112.99%

水道事業は高い剰余比率を維持

R5 105.09%

下水道事業会計：109.39%

下水道事業の剰余比率が大幅に改善

R5 28.15%

全国平均(市区町村)との比較

会計区分	経営健全化基準	当団体の算定値	全国平均等 (20%以上の団体数)
病院事業会計	20.0%	－％(健全)	全国1団体
水道事業会計	20.0%	－％(健全)	該当なし
下水道事業会計	20.0%	－％(健全)	全国1団体

全国では病院事業、下水道事業でそれぞれ1団体のみが基準を超えています。